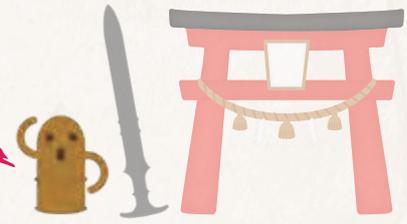


むかしむかし 昔々の そお市

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第23回



七村に伝わる 悲恋の物語



財

部町七村には小少将松と
いう二本の※塚木がありま
したが、今は枯れてなくなり、杉
の太木が見られます。都城領主
北郷時久ほんごうときひさの時代、北郷家の家臣で
あった桑山刑部くわやまぎょうぶと
同家に仕えていた小少将との
悲恋の物語が伝わる
場所です。

桑山刑部は文武両道に優れた評
判のよい青年で、小少将は心優し
く、美しい女性でした。ある秋、
蹴鞠けまりの会があり、目覚ましく活躍
した刑部の姿が小少将の胸に焼き
つきました。また、刑部も蹴鞠の
合間に小少将の様子を見て、心を
焦がしたといひます。

その後、悶々と心を焦がした刑
部は、
「わが恋は山下瀧に岩波の
心碎けて君ぞ恋しき」
と小少将へ心を寄せて贈り、小少
将は
「わが恋は山下しげき夏草の
またもや君を想ふ露かな」
と返歌を送りました。

当時、城内で恋愛は堅く禁じら
れていましたので、二人は人目を

忍んで愛し合い、やがて小少将は
妊娠しました。天正元年（一五七三
年）8月7日「今日出で明日は帰
らぬ旅の路 いづくの土か吾れを
待つらむ」と書き残し、二人は夜
に紛れて都城を脱出しました。そ
して、今の柳井谷から畦ヶ山を
経て、七村まで逃げて来ました。七
村では地元の豪家、瀬戸山家が二
人を匿かくまっていました。追手に取
り囲まれました。刑部は万策尽き、
「お前は女の身だから、殺されるこ
とはないだろう。どうか生き延び
て郷里に帰り、立派に子どもを産
んでくれ」と諭しましたが、「なん
でわたしだけ生きられるのでしょ
う。一緒に死なせてください」と
死をともにしたいという小少将の
意思をくみ取り、まず小少将を刺
して、自分も自刃しました。

桑山刑部と小少将の墓は、現在、
七村集落の方々によって管理され、
9月8日に近い日曜日に供養会を
行っています。ぜひ一度訪れて、
二人の物語に思いを寄せてみてく
ださい。

桑山刑部と小少将の墓は、現在、
七村集落の方々によって管理され、
9月8日に近い日曜日に供養会を
行っています。ぜひ一度訪れて、
二人の物語に思いを寄せてみてく
ださい。



桑山刑部と小少将の墓

※塚木……墓標のかわりの木のこと。
※注進……事件が起こった時、それ
を急いで報告すること。